

(様式1)

大 学 名	京都大学	学 問 分 野	情報・電気・電子
専 攻 等 名	情報学研究科（知能情報学専攻，社会情報学専攻，数理工学専攻，システム科学専攻） 学術情報メディアセンター		
拠点のプログラム名称	知識社会基盤構築のための情報学拠点形成		
拠点リーダー氏名	上林 弥彦	所属部局・職	情報学研究科・教授
プログラムの概要	知識の利用・生産が中心となる知識社会に備えるために，得意分野である知能メディア・データベース・基礎理論を有機的に組み合わせ，京都大学伝統の国際性・フィールドワーク重視という特性を生かした若手育成を最重点とする研究・教育を行う．		
拠点形成の目的・必要性	本拠点形成計画の目的は，産業の中心が知識産業となるきたるべき「知識社会」における基盤的な技術を研究するとともにそのための人材育成を行うことにある．来るべき知識社会は，知識を人間や社会システムが効率よく蓄積・共有・活用し，これに基づいて生まれる新しい情報が再び知識として循環できるような社会である．本拠点形成計画では，知識社会における基盤的な技術を研究するとともにそのための人材育成を行うため，京都大学で世界的な実績のある，知能情報メディア，データベース，基礎理論分野を有機的に統合し，知識社会基盤構築のための情報学研究教育の拠点を形成することを目指しており，次の3課題の研究を中心としている． 1) 知能情報メディアの多面的展開，2) 情報生成流通基盤，3) 社会情報システム 単に技術的な問題を解決するだけでなく，人間・社会と情報技術の接点となる分野において新しい体系を模索し，京都大学の伝統である国際性やフィールドワークなどを生かすことで，京都情報学とでもいうべき新分野を創出したい． 本プログラムではシリコンバレーや北京に海外研究教育拠点を設置することで，さらにこの活動を広げる予定である．また，人材育成のために重点的に予算を使い，リーダーシップの取れる人材を多数育成することを目指す．得られた成果は，国際会議の開催で公開するとともに，論文や特許といった形の知的財産として蓄積し，産学官連携，地域連携および教育活動を通じて社会に還元する．		
研究拠点形成実施計画	知識社会の基盤構築を目指す研究の中で，知識の獲得・提示，知識の生成・共有，知識の循環を基盤とする社会情報システムを三つの中心テーマとし，これに基づいて以下の研究を実施する． 1) 知能情報メディアの多面的展開（知識の獲得・提示） 2) 情報生成流通基盤の確立（知識の生成・共有） 3) 社会情報システムの構築（知識の循環を基盤とする社会情報システム） 個々人の研究に要する研究費への支出は最低限にとどめ，本プログラムでは従来の研究費では支出が困難であった，客員ポストの確保，産学交流，地域交流，大学院学生などへの給与および研究費割り当て，海外研究拠点といった面への支出を重点化する．また，ボトムアップ型の研究課題設定に加えて，本プログラムの目的にかなった課題をトップダウンに設定し重点的に援助することも計画している．		
教育実施計画	個性ある若手研究者育成のために，競争型の支援プログラムや海外派遣プログラム，海外学生招聘プログラム，外部アドバイザー制などを用意する． 1) 産学官国際連携教育研究プログラム：産学官連携研究プロジェクトに大学院生やポスドクを参加させ，実践的な教育を行う． 2) 研究リーダーシップおよび教育リーダーシップ養成プログラム：大学院生に研究プロジェクトや教育プロジェクトを競争的に提案させ，リーダーシップのとれる人材の育成を図る． 3) 海外学生教育プログラム：中国などから優秀な学生を短期間こちらのプロジェクトに参加させ，優秀な学生には博士課程進学やポスドクへの道をひらく． 4) 複数アドバイザー制度支援プログラム：大学院生（修士・博士）に対して，指導教官以外の国内外の教官・研究者2名にアドバイザーとして研究指導を依頼する． 5) 海外連携講座・海外交流促進プログラム：海外連携講座として，海外研究拠点や海外連携大学・企業に大学院学生を派遣し，現地における教育を行えるためのプログラムを設ける．たとえば，Alan Kay 博士による青少年を対象とした独創性を伸ばすような革新的情報教育プロジェクトを共同して推進する．		

知識社会基盤構築のための情報学拠点形成

◆知識の利用・生産が中心となる知識社会に備えるために、得意分野である智能メディア・データベース・基礎理論を有機的に組み合わせ、京都大学伝統の国際性・フィールドワーク重視という特性を生かした若手育成を最重点とする研究・教育を行う

研究プログラム

社会情報学専攻

知能情報学専攻

数理工学専攻

システム科学専攻

学術情報メディアセンター

知能情報メディアの多面的
展開の研究
(人間理解と統合
メディア理解)

情報生成流通基盤
(基盤ソフトウェア
の研究開発)

社会情報システムの
構築に関する研究
(成果の社会的利用)

国際連携

◆共同研究 海外アドバイザー

産学官連携

◆知的財産権管理担当設置

地域連携

◆革新的情報教育プログラム

人材育成

院生研究リーダー
シップ養成プログラム
・複数アドバイザー支援
・ポスドク採用
院生海外交流プログラム
・TA任用プログラム

海外研究拠点形成

シリコンバレー/中国
科学院などに拠点形成
客員教官の任用
外国人研究生の組織的
受け入れ
国際情報学シンポ
ジウム開催



本COE プログラムの目標

知識社会基盤構築のための国際水準の研究拠点形成と京都情報学の確立
多彩な研究教育プログラムを通じてのリーダー人材の養成
産官学連携 国際連携 地域連携の推進 強化

来るべき知識社会への貢献

知識社会の基盤的情報技術の開発と還元
社会情報システム開発を通じた成果の社会還元